

ふくしま ★ゆめ ★トライ

福島県内で夢に向かって
新たなチャレンジをしている方、
地域を盛り上げるために
頑張っている方を紹介します！

自然からの贈り物 会津の鞆を届けたい。

やまあみ鞆製作所

代表

かたおか

片岡

美菜さん

(西会津町)



「狩猟と、動物の皮を加工して革にする『なめし』作業以外は全て自分でやります。大好きなもののづくりで没頭できるので日々充実しています」と片岡さん。

材料である猪・鹿・熊の革を手を持つ片岡さん。これらの革はどれも牛の革より軽く、製品にしたときに女性でも扱いやすいのが特徴です。



ブランド「ZICA」の鞆が並ぶ店内。ブランド名の由来は「直」や「まっすぐ」という意味。「やまあみ」も「山」「編み細工」という西会津町に来たきっかけから名付けました。



オリジナルのキーホルダーや二つ折り財布などを製作するワークショップも開催しています。

〒970-0129 西会津町野沢字本町甲 1229
✉ bagmaker.mina@gmail.com

西会津町で猪や鹿、熊の皮を使って鞆などの革製品を作っている片岡さん。神奈川県出身で、以前は都内の鞆制作会社に勤務していました。「使えば使うほどに味が出てくる革の鞆に魅了され、6年間にわたりデザインや縫製技術を学びながら、効率的な生産方法を身につけました」と話します。

元々自然豊かな場所で暮らしていたと考えていたため、北関東などさまざまな地域を見て周り、2020年8月に西会津町へ地域おこし協力隊として移住。「からむし織やヒロロ細工など、ものづくりの伝統が残っていること、国際芸術村があり、多くのクリエイターが集まっていることが決め手でした」と片岡さん。地域おこし協力隊の活動として革製品を作り、卒業後の2024年6月にブランド「ZICA」を設立。地元猟師から譲ってもらった猪や鹿、熊の皮を使用した革製品や地元で伝わる「出ヶ原和紙」を利用した鞆を作っています。また、インスタグラムを中心に、SNSなどを通して情報発信も行っています。「害獣以外の革を使った製品を作ったり、イベントに出店したりと、やりたいことがたくさんありますが、一番は会津の素材を使い、自分の技術で今までにない製品を作り、届けることです」と抱負を語ってくれた片岡さん。これからは会津の自然や文化を生かした製品を作り続けていきます。



読者からのお便り

「ゆめトライ」に掲載の木田さんのオリーブに対する思いが誌面から伝わってきました。もっとオリーブや福島のことを全国に届けてほしいと思いました。(20代 福島市)

2025年
4月号

